

新規採用職員 座談会 (R2年 Vol.3)

令和2年4月1日に兵庫労働局に入省されました厚生労働事務官（基準系統及び安定系統）による座談会を開催いたしました。

Q1 兵庫労働局での仕事内容を教えてください。

高岡：庶務関係業務を担当していて、職員証の作成や、出張に行かれた職員の出張旅費関係書類の作成、出勤簿の管理などをおこなっています。

水原：私も庶務関係の仕事を担当しています。物品の購入業務や、高岡さんと同様に旅費関係書類の作成などを行っています。ハローワーク内の業務を円滑にすることが、ひいては、国民の皆様へ貢献していくことになる、と思っています。

藤田：私は、基準系の厚生労働事務官で、労災補償の審査業務をしています。業務を理由にケガをされた方、病気になった方などからの請求に対して、労働災害と傷病の因果関係の観点から、認定してよいかどうかを実務に携わりながら学んでいます。

亀井：基準系の事務官として付け加えて言うと、私は、労働保険の成立手続きや、労働保険料の申告・納付の業務など、どちらかというと、事業場に対して関わる仕事をしています。

川端：安定系の事務官は、労働保険の中でも雇用保険の業務に携わっていて、窓口で、職を失われた方に雇用保険の給付業務などを行っています。また、その中でも再就職された方には、一定の条件のもとで再就職手当が支給されるので、その審査業務も行っています。

松村：私は、雇用保険業務の中でも、事業主側の手続きを担当していて、失業された方の離職票の作成や、新たに従業員を雇われた場合の資格取得届の受理を行っています。



ソーシャルディスタンスをキープしています。

Q2 職場環境について教えてください。

松村：職場では積極的に有給休暇を取得するよう言われているので、職場全体で有給休暇が取りやすい環境にあると思います。4月5月は繁忙期だったので、1日1時間程度は残業をしていましたが、6月は残業なしで帰っています。お昼休憩には、上司と野球の話をして盛り上がっています。

藤田：先輩からは、「まずはやってみる。分からないときはサポートをするから。」と言ってもらい、毎日いろんなことに挑戦できているかなと思います。残業が必要な場合でも、自分のスケジュールと調整することができます。

川端：私も先輩や上司から、温かく接していただいています。残業は少し多いですが、先輩たちからは、早く帰らせてあげようという優しさを感じています。

水原：私の職場も仲が良く、仕事をする時はもちろん真剣に業務に取り組みますが、お昼休憩時には、部署に関わらず、おしゃべりしています。

高岡：みなさん優しい方が多いですが、私も、隣に座っている上司の方と仲良くさせてもらって

て、お昼休みなどは、かわいい動物の写真を見せ合ったりしています。

一同：（笑顔）

藤田：基準系の厚生労働事務官は、一時採用が止まっていて、1・2年前から再開しています。そのため、私の職場の場合は、年の離れた先輩や上司が多く、私をあたたかく見守ってくださいます。電話対応でも、困って代わってもらったときには「横で対応の仕方を見て。」と声をかけてもらっています。

Q3 職場では、どのように業務を教わりましたか。

松村：初めての窓口業務でしたが、窓口に出始めたのは5月のゴールデンウィーク明けで、4月は要領を読んだり、先輩の横で窓口業務を学ばせてもらったりしました。

水原：私はどちらかというと、やりながら教えてもらいました。

藤田：私の場合は、電話や窓口でわからないことがあった時には当番の先輩や上司に聞いたり、一緒に窓口に出て教えてもらったりしていました。ほかに業務の教わり方としては、在宅業務期間中に手引の本や研修資料や通達を読んで、出勤日に実際に業務に携わり

ながら疑問を解消していくことで、理解を深めていきました。

Q4 兵庫労働局で働くことを決めた理由は？

亀井：大学では、労働法のゼミを専攻していて、大学で学んだ知識を活かせるのを就職先にしたいと考え始め、最終的には、兵庫労働局の業務説明会で感じた風通しの良さそうな雰囲気決めました。

高岡：私も亀井さんと同じで、説明会での雰囲気や、国家公務員の中でも全国異動がなく、兵庫県内に定着できるところが良いなあと思いました。

藤田：私は職場見学をさせていただいたことがあるのですが、業務の内容や雰囲気など、自分がそこで働いているイメージが自然と浮かんだので決めました。

水原：私は、窓口業務で、国民の方と距離感が近いところが決め手となりました。

川端：私は既卒なんですけど、社会の中で肩書がなく、自分自身が何者でもないという時期があり、それが経済的にも精神的にも不安定な状態であるということを持てて知り、その体験から働くことを支える労働局での仕事に関心を持ちました。

松村：私も既卒で、前職で中小企業の代表と関わる機会が多く、多くの事業主の方が人手不足で困っている様子を知り、労働者だけでなく、事業主、双方を支える労働行政に興味を持ちました。

(ここで、総務部長にご出席いただきました。)

一同：お疲れ様です！

総務部長からのQ
兵庫労働局の厚生労働事務官になってよかった！と思った出来事がありますか？

高岡：旅費関係書類を作成し、出張者に内容を確認する際、その方から感謝された時に居心地の良い職場であると感じます。

亀井：事業主の方に、書類の返送時に、「ありがとうね」と言っていたときは、良かったなあと思います。また、多くの人に関わっている「労働」という現場に携わることができ、やりがいを感じています。

藤田：レントゲン写真を確認したり、医学的な知識を学ぶことができたりと、大変勉強になります。また、労働基準監督署を頼ってこられる方一人一人に寄り添うことができることが魅力と感じています。

松村：私も、亀井さん同様、事業主の方に「ありがとう」と言ってもらえることが、励みになります。

川端：他の方と同様、私も「ありがとう」と言ってもらったことが、一番嬉しく感じます。

水原：私は、現在庶務関係業務なので、まだ窓口業務には携わっていませんが、業務中に他の部門の職員と話す機会が多く、各部門の業務内容を教えてもらうことができ、自分の努力次第で、出来ることをどんどん増やすことができるので、兵庫労働局で良かったなあと思います。



Q5 最後に、受験生へのメッセージをお願いします。

亀井：今回、労災手続きの窓口で、新型コロナウイルス感染症を理由とした相談があったのですが、そういったニュースとなっている身近な出来事に直接関わることができ、自分の仕事が誰かの役に立つということが実感できる仕事であるので、本当にやりがいのある仕事だと思います。

皆さんも、大変な時期ですが、あきらめずに挑戦していただきたいと思います。

水原：雇用調整助成金の研修を受けたとき、この仕事は、国民の皆様の生活を支える仕事の最前線だと実感しました。やりがいのある仕事ですので、ぜひ一緒に働けることをお待ちしております。

松村：労働基準監督署やハローワークには、困っている方が来られることが多く、そういう方々を支えたいと思っている方には、本当にやりがいのある仕事です。また、職員も同じ思いを持った優しい方が多いので、働きやすい職場だと思います。

高岡：私も実際働いてみて、上司の方々は優しい方が多く、分からないことがあり質問をしても丁寧に教えてくれます。ささいなことかもしれませんが、働く上では、とても魅力的だと思います。

藤田：興味と熱意さえあれば、やっていけると思うので、今年はコロナウイルスの関係で大変かと思いますが、ぶれずに自分の意思を貫いて頑張ってください。

川端：仕事の内容については、不安や疑問も出てくるとは思いますが、そのようなときには実際に話を聞ける場所に足を運んだらいいと思います。私も職場見学をさせていただきましたが、職員の方は皆さん、親身になって相談に乗ってくれました。

一緒に働くことのできる日を、楽しみにしています。

本日の参加者

(基準系の厚生労働事務官)

神戸東労働基準監督署：亀井

神戸西労働基準監督署：藤田

(安定系の厚生労働事務官)

兵庫労働局総務部総務課：高岡

灘公共職業安定所：水原

西宮公共職業安定所：松村

姫路公共職業安定所：川端

(ゲスト：倉永総務部長)